

〈今号の掲載内容〉

①「病気とケガ対応」研修の様子



第34号 令和3年1月20日

編集・発行 保育サービス課研修担当

②けやき保育園「子どもの行動特性とハザードの予測」研修の様子・実践報告



③大谷口保育園「食育・食を通して育つもの」研修の様子・実践報告



「病気とケガ対応」 講師 都立大塚病院小児科医師 入間田 健 先生

～研修内容より～

「アレルギーマーチ」について

アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息があげられる。アレルギーになりやすい体質の子どもが次々と病気にかかって長期にわたって困るという事を指す。アトピー性皮膚炎は痒いから掻いてしまい、皮膚が荒れ、また痒くなるという繰り返しであり、正しいスキンケアやステロイド剤の投与で皮膚状態が良くなる。ステロイド剤は怖い、強い、皮膚が黒くなる等のイメージがあるが、正しく使えば問題はないし、むしろ有効な治療薬である。

「食物アレルギー」について

血液検査で判断するのではなく、保護者や本児の様子から医師が判断するものであり、血液検査は必須ではない。保育園では生活管理指導票を用いて除去などを行うので、年に1回は診断が妥当であるか見てもらうために、更新する必要がある。

「熱性けいれん」について

生後6カ月～4、5歳頃まで、有病率は7、8%くらいで、38℃以上の発熱に伴う、体温の急激な上昇時、熱の出始め24時間以内に起こることが多い。ダイアップ座薬は、熱性けいれんを起こしたことがある既往がある子どもに処方される。熱が出ても痙攣が出ないようにする薬であり、熱を下げる薬ではない。保育園で座薬を使用したら保護者に迎えに来てもらう必要がある。痙攣を保育園で起こしたら病院を受診した時に様子が伝えられるように観察が必要である。

「頭部打撲」について

まずは意識があるか確認する。呼びかけに反応が悪く、ぼんやりしている、何度もおう吐する、目の動きや、手足の動きがおかしい等、いつもと異なる症状がある時はすぐに受診する。受診しなくても一日は安静で、様子観察する。

〈受講者の感想〉

- アレルギーのマーチが進まないように肌が荒れている子の保護者には早めの受診を促していきたいと思う。
- アレルギーマーチは、年齢によって出現する症状があり、連鎖を止めるために乳児期の早期治療への介入が重要であることを学んだ。現在0歳児クラスを担当しており、口周囲の症状を認めることがある。アレルギーの早期治療につなげられるように受診を促していきたい。
- アレルギーは年齢と共に形を変え、多くの人に起こり悩ませている事が分かった。また、食物アレルギーも9割の保育園にアレルギー児がいる事を知り、より正しい知識を身につけて対応できるようにしていきたいと思った。
- アレルギーマーチという言葉は初めて聞いた。アレルギーがアトピー性皮膚炎、気管支喘息に繋がってくる事を知り、保育士にできる事は何か学んだことを保護者にどのように伝えていく事ができるか考えるきっかけになった。



子どもの行動特性とハザードの予測方法

講師 キッズデザイン研究所

【職場での研修内容の活用】 高島平けやき保育園

皆さんは、「こどもOS」って言葉をご存知ですか？この研修の中で最初にとび込んできた言葉です。

子どもの動作や行為を考え

その事で育つ力をとらえるとともに、リスクとそこに潜むハザードを予測し危険を回避するというのが、この研修のテーマです。

こどもOSとは・・・

日常生活のあらゆる場面で見られる

こども特有の思考から発現する動作や行為（共通性・類似性）

「職員と一緒にこのテーマを考えたい！学びたい！」と、いう思いから保育サービス課より、教材の「プレイフルデザインカード」をお借りして園内研修を行いました。事務所に写真を掲示し、「子どもはどんな行動をするかな？」を、職員に書き込んでもらうところから、園内研修がスタートです！

① さすが保育士！
子どもの気持ちや行動が
わかっています。

② 夜間会議の研修時間
「これは好奇心」「これは挑
戦する力」その動作や行為
で、どんな力が育つかを出
し合いました。

③ ここで登場！
プレイフルデザインカード！
表面は、発想のヒントになる
「デザインコード」
裏面には、ハザードチェク
の為の「安心安全コード」

④ 合理性、既成概念、周囲の目、社会性などの大人OSをはずして

こどもOSに
寄り添う

リスクを想定しながら
子どもが成長するために
経験や挑戦させる

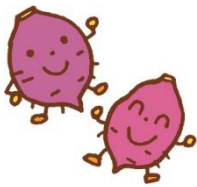
ハザードを捉え
危険を回避する

予防対策として
グループワークは
行わず意見を
出し合いました。

園内研修を終えての感想・・・

- ・翌日の散歩先で担任同士、子どもの行動をみて「こういう事だね」と、共通認識を持って、事前に注意すべき事や、リスクを承知で挑戦させる事を確認しあえました。
- ・危険だから、ケガをするから等と、止めてしまう事も保育の中で多くあったと気づき、工夫が足りず子ども達の成長の芽をつんでしまっていたと感じました。保育者が工夫し、子ども達のOSを大切に守っていきたいです。
- ・子ども達一人ひとりの発達段階を知る事、一人ひとりの運動能力に応じた働きかけをする事が大事だと感じました。





保育園の食事

～食を通して育つもの、大切にしていけるべきもの～

講師：大妻女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻 小野 友紀先生

【職場での研修内容の活用】 大谷口保育園

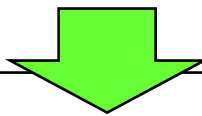


～研修内容より～

- ・10歳までに身についた食生活を繰り返していく。小さい頃（保育園生活）の食事が大事である。好きなものを好きな時間に好きなだけ食べているとお腹は空かず、好き嫌いも増える。正しい食生活を送るための大人の役割と子どもの役割がある。
- ・1975年の頃の食事が理想的！→現在の65～75歳くらいの方の食事メニュー
＝様々な食材を使用していて品数は3品以上。魚の割合が多くカルシウムを豊富に摂取していた。

～小野先生より保育士・栄養士の方へ～

- ・保育園のお昼とおやつでできるだけ栄養をとらせてあげたい。半日以上分の栄養を摂取しましょう。
- ・塩分を控え、魚や肉を増やしましょう。
魚のおいしさを伝える→家庭ではあまり食べていないので、保育園での取り組みが必要である。
- ・野菜をとりましょう。今の保護者世代（20～30代）は野菜の摂取量が少ない傾向があります。保護者の食生活が子どもに影響を与えています。
- ・「早寝早起き朝ごはん」…生活リズムと成長ホルモン分泌の関係を家庭に伝えましょう。
- ・「何を食べたか？」よりも「どう食べたか？」が心に残ります。集団での食事の大切さを知らせましょう。
- ・食べ物に興味を持つ子どもに育てましょう。
①これなあに？ ②どこからくるの？ ③どうやって作るの？ ④誰が作ったの？
- ・作り手（保育園では調理さん）の顔、調理している姿が見える環境にしましょう。
→食事への信頼感、安心につながります。



研修で学んだことを、5歳児が興味を持てるように実践しました。

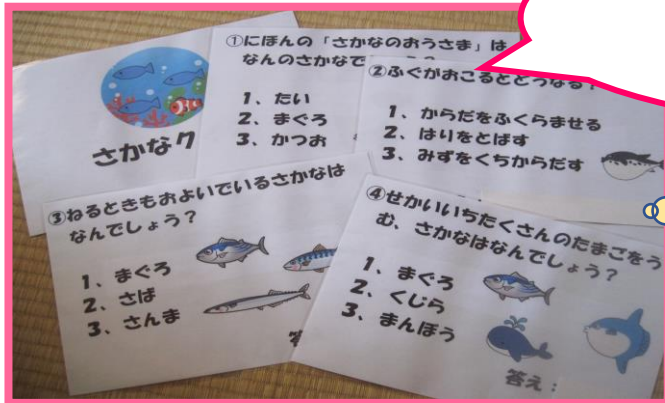
「焼く」「煮る」「揚げる」ってどういう料理？



身近なメニューがどんなふうに調理されているか問いかけてみたところ、「わからない」「パパやママの料理するところを見てな～い」という声が多かったので、調理法の種類についてどんなものがあるのかイラストを使って知らせました。



さかな10問クイズ!



豆知識を盛り込んで
魚に興味を持てるような内容にしました。

Q 世界一たくさんの卵をうむ魚は
何でしょう?

A マンボウ (3億個)

食事の大切さについて

Q 早寝早起き朝ごはんは何に良いの
かな?

A 朝ごはんを食べると脳を目覚めさせ
集中力を高める効果があります



子どもたちなりに
一つ一つ考えていました。
「(学んだことを) ママに教
えてあげる～」という声も
聞こえてきました。



研修受講・実践者より

研修で学んだことや印象に残ったことを子どもたちに伝えました。クイズやイラストを用いて少しでも子どもたちの興味を引けるようにし、実践しました。子ども達は約30分間よく話を聞き、保育士の投げかけに耳を傾け、よく考えながら参加してくれました。今後は食育PTとも連携して第2回の取り組みや保護者への発信を考えています。

〈受講者の感想より〉

- ・集団の場における食事体験や温かいものを温かいうちに食べられることは保育園ならではの経験であり、その中で“楽しく食べる”事が保育園の役割であると感じた。この“楽しく食べる”経験は子どもたちに対する保育士の関わりや子どもたち同士の繋がりによって積み重ねられていくものなのではないかと思う。保育園での経験がとても大切であると改めて学ばせてもらった。
- ・調理をした人の顔が見える環境、調理中の匂いを感じる事ができる環境、保育園にはその環境が整っており、それが食育に繋がっている。この環境を活かしながら食を通して子どもたちの成長に貢献したい。
- ・食事を苦手とする子が多いクラスなので食育の進め方に悩んでいたが、今回の研修で、食事の進め方、子どもたちへの声のかけ方、また、保護者への伝え方など考えを深める事ができた。
- ・食べた経験が8~9回あると食べられる食品が増えていくという事を知り、子どもが好きそうではない食材も保育園の給食を通して、経験を積み上げてあげられる。嫌がる子に無理強いをせず、保育士が子どもと同じものをおいしそうに食べている姿を見せる事も大切なことだと思う。